



思いを互いに伝え合い、学びを高める子どもの育成

山形市立蔵王第二小学校 鈴木 章 人

I はじめに

あかねさす日のまともなる高岡に
心ゆたけく子らは学ばん

昭和12年、日本を代表する歌人「斎藤茂吉」が母校（蔵王第二小学校）に学ぶ子どもたちに寄せて詠まれた短歌である。

この歌は、「太陽が真正面からさしてくる日当たりのよい高岡にある学校で、その光を受けて心豊かに、子どもたちは学ぶことだろう。そう願ってやまない。」と解釈する。

校舎は蔵王温泉への登り口から「蔵王の朱い大鳥居」として親しまれる蔵王山神社一の大鳥居をくぐった小高い丘に建ち、その通学路は登り降りともにとっても急な長い道のりで、子どもたちにとってはねばり強さが試される。

本校では、「あかるく かしこく ねばり強い蔵王の子どもの育成」を学校教育目標に掲げ、教育活動全体を通して育んでいる。

1 「自分も相手も大切にする子ども」

- (1)居場所と役割のある日々の学級経営
- (2)道徳教育の充実を図り、重点として「相互理解・個性の伸長・思いやり」を育む
- (3)深い子ども理解と情報の共有

2 「主体的に考え行動する子ども」

- (1)「分かった」「できた」が実感できる授業
- (2)相手の考えを自分の考えと重ねて比較したりして思考し、お互いに思いを伝え合う学習場面の設定
- (3)自己の成長を実感できる振り返りの蓄

積と価値付け

- (4)「斎藤茂吉」と「金子てい」に学ぶ感情豊かな心の育成

3 「仲間とともに磨き合う子ども」の育成のために

- (1)自分を磨き高め、仲間と磨き合うための目標設定と活動の吟味
- (2)縦割り活動を中心とした学年交流の充実
- (3)たくさんの人や事柄と関わり、地域を愛し、地域の一員を実感できる体験的な学習を計画的に設定

4 その受け皿となる、子どもたちが住み育まれる地域の歴史と風土を大切にし、私たち教職員は、チームワーク・フットワーク・ネットワークの構築と強化を進めることで、目指す子ども像に近付けていきたい。

II 研究の概要

本校は、令和3年度より山形市教育委員会から研究委嘱を受け、研究と実践を重ねた。今年度10月に実施された委嘱の公開研究発表会は、研究主題「思いを互いに伝え合い、学びを高める子どもの育成」とした。

また、振り返りを大切にしながら学びを積み上げてきた。そのことで、子ども自身が思いを伝えるよさを実感したり、中・長期的に学びの高まりを実感したりできると考えた。

振り返りの際は、「分かった」「できた」という事実や知識の確認、「前と同じように」「次も使えそう」という関係性や一般化の生成、「考えが変わった」などの自己変容の認識や「～さんの考えを聞いて」といった他者との比較の3点を振り返りの視点とし、学年に合わせて主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進しながら、子どもたちに必要な資質・能力の育成に向けて研究を進めた。

また、以下の3つの授業づくりの柱を中心にしながら、「思いを互いに伝え合う子ども」「学びを高める子ども」の具現化に向けた実践を積み重ねた。

1 学習の見通しとは

- (1) 年間の見通しをもった単元構成
- (2) ゴールの姿を子どもと具体的に共有
- (3) 課題の理解
- (4) 子どもと一緒にの課題づくり
- (5) 既習との結び付き

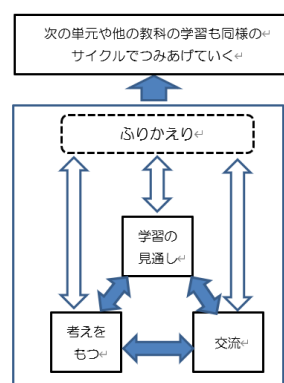
2 考えをもつとは

- (1) 文章や問題の理解
- (2) 発問の吟味
- (3) ワークシートの工夫
- (4) 考えをもつためのステップ
- (5) 既習をもとに考える

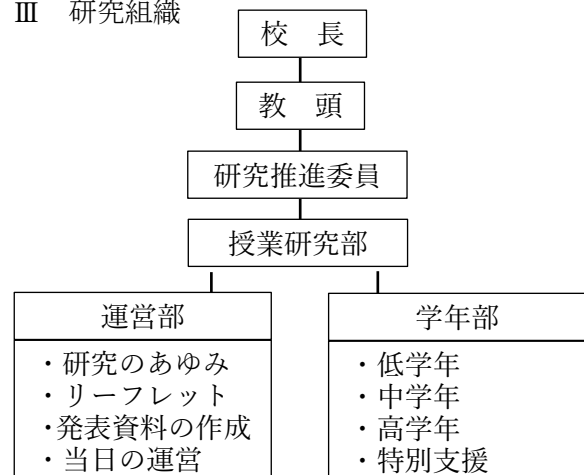
経験の繰り返し

3 交流とは

- (1) 教師の出と待ち
- (2) 発言をつなげる
コーディネート
- (3) 適切な交流場面の設定
- (4) 話し合う内容や
目的の明確化
- (5) 交流のカリキュラムマネジメント



III 研究組織



IV 研究計画

月日	研究会	内 容
4/6	研究推進委員会①	研究概要、指導案の形式
4/11	研究全大会①	研究概要、形式提案、日程 研究会の進め方
4/21	委嘱校研究主任会	
5/8	研究推進委員会②	リーフレットについて、
5/22	研究全大会②	リーフレットの内容、役割。 振り返りの蓄積
5/29 7/21	各学年	校内研究会（全学年）
7/12	研究推進委員会③	リーフレット点検
7/18 7/25	授業者	助言者との構想の会
7/19	学年部会	指導案構想
7/24	運営部会①	リーフレット点検
8/21	授業研究部①	指導案2次締切り
8/23	研究全大会③	指導案検討
8/23	公開研究発表会案内	
8/31	運営部②	研究のあゆみ完成
9/12	運営部③	校内環境、掲示物
9/12	授業研究部②	指導案最終提出
9/25	教頭	研究のあゆみ、指導案をキャビネットへ公開
9/27	研究全大会④	最終確認
10/3	授業研究部③ 運営部④	前日準備
10/4	公開研究発表会	

V 研究授業の実際

3年 国語 すがたをかえる大豆

～食べ物のみみつブックをつくろう～

1 教材設定

本単元では、自分が伝えたいことをより適切に読み手に伝えるために、事例の順序を吟味したり加筆修正したりしながら文章を書くことを大切にしました。説明文の教材から得た視点について、その都度自分の書いたものを振り返るようにしました。

また、自分の文章がよりよいものになっていくことで、学びの高まりを実感できた。

【付けたい力（ゴールの姿）】 ●教科 ○ 振り返り

●伝えたいことの中心を明らかにし、文章の組み立てを考えて書く力

●中心となる文を捉えて読む力

●初め・中・終わりのまとまりを意識して読む力

○これまでの学びを振り返り、既習を生かそうとしたり、今後の学びとつなげたりしようとする姿

○自分の考えを書いたり話したりして表現する姿

○友達の考えを受け入れて認めたり、取り入れて比べたり考え直したりする姿

2 単元構成

(1) 単元を貫く学習活動の設定（学習の見通し）

「食べ物のみみつブック」をつくる活動を単元の中心に据える。「食べ物のみみつブック」を先に書き、「すがたをかえる大豆」を読み進めていく中で、随時自分のものを読み返し、追記した。同時に学びの足跡を残すことで、児童の考えの変容や深まりを実感できるようにした。

(2) 振り返り（考えをもつ）

自分や友達の文章を読んで、伝えたいことをより適切に読み手に伝えるためにどんな点を工夫したかを振り返った。単元の最後には、既習の中から生かしたこと、友達の考え方から得た気づき、伝えたいことをより適切に読み手に伝えるための工夫などの振り返りを価値付けた。それによって、児童の学びの高まりを実感させた。

(3) 必要感のある交流

意図的に組んだ3人グループでの交流の中で、自分の考えを構築したり再確認したりする時間を設定した。



（ほか）甘豆をいれて作るくふうもありです。また、はちみつやこたしなども、この甘豆を牛乳にいれて、ナベになりませす。チーズはそのまま食べてもいいし、何かといし食べてもいいです。

ヨーグルトも甘豆を使います。ヨーグルトもはちみつで、ゆーさー甘豆が牛乳にふくまれます。どうしてかして、くたて、すぼく、トロトロなヨーグルトになります。ほくは、ヨーグルトはそのまま食べます。

東洋は、牛乳をいれた物で、どうしてのうしゅくさせたら



さらに、ミックスにして飲むくふうもあります。フルーツを二つか三ついれて、まぜるとミックスになります。

さらに、脱し乳とクリームは牛乳を分けよくふくまれます。脱し乳とクリームのうち、クリームではまぜて、ひきすと、アイスクリームになります。ケーキなどいれてもいいですよ。

そして、クリームをかくはんすると、バターになります。生クリームをまぜて水を取りのぞいたのがバターです。ぼくは、パンにのせてレンジでやいて食べます。



3 必要感のある交流

意図的に組んだ3人グループでの交流の中で、自分の考えを構築し、再確認した。

4 振り返り

(1) A児の振り返り ※「分かった」「できた」

「すがたをかえる大豆」が5つの段落に分けて書いているように、ぼくも「食べ物のひみつブック」で、作り方が似ているものと工夫がいっしょのものを1つの段落にして書いた。

(2) B児の振り返り ※「次も使えそう」

「なんだかわかりますか。」が問いだと思ったけど、本当はかくし問いがあって、自分たちで話し合って問いを考えてつくった。たとえば「どんなくふうがあると思いますか。」などが思いついた。これから読む説明文でも、かくされた問いをさがしながら読んだ。

(3) C児の振り返り ※「～さんの考えを聞いて」

Dくんが順序をまよっていた。自分もDくんみたいにまよったけど、みんなと勉強していたら分かってきた。

5 成果と課題

(1) 文章の構造を考える際、短冊などを可動式にしておくことで、学んだことを生かしてすぐに更新することができた。



(2) 子どもの「書きたい」という思いが膨らんだタイミングで書くことが大切である。体験したことや学んだことから、書くまでのインターバルを短くすることが大切である。

(3) 今回のような学習活動は、国語以外の教科でもどんどん活用するとよい。

VI おわりに

今年は猛烈な残暑に見舞われ、山形市においては猛暑日が観測史上過去最多の28日を数えるなど、子どもたちの学校行事、学校活動に大きな影響を与えた。この度の公開研究発表会においても急な学校行事の日程変更がなされる中、調整に調整を重ね、さらに一端落ち着きを見せたコロナ禍のいまだ油断できない状況の中、無事に公開授業として、直接授業を参観していただくことができたことに職員一同、ほっと胸を撫でおろしている。

令和3年度から研究主題「思いを互いに伝え合い、学びを高める子どもの育成」をテーマに、3年間にわたり校内授業研究会、校内研修を重ねてきた。

これまで研究を進めるにあたり、指導助言者として、1年生算数に山形市教育委員会指導主事有澤 徹先生、3年生国語に山形大学准教授鈴木 貴子先生、6年生算数に山形市教育委員会指導主事田井地 仁先生、特別支援学級生活単元学習に村山教育事務所指導主事伊藤与奈先生を招聘させていただき、公開研究発表に至った。

指導助言者より、熱心かつ丁寧に、多くの時間を割いてご指導いただき感謝申し上げます。

ご参会いただいた皆様には、公開研究発表会のご感想、分科会においても、時間内では収まりきらない部会もあるほど、とても多くの貴重なご意見、ご感想を頂戴したことに感謝申し上げます。今後も皆様から頂戴した声を糧としながらさらに研究を深めてまいりたいと思う。

本校は児童数82名と小さい学校で、小勢のため、多々至らぬところがあった場合は、蔵王の裾野に育つ素直な子どもたち「あかねっこ」の笑顔に免じて、お許しいただきたい。

これからも私たち蔵王二小は、蔵王の高岡に立つ「斎藤茂吉」の母校として、蔵王地区に寄り添い、郷土の資源を有効に活用した、質の高い授業を求めていく。